

平成 22 年度 (社) 大気環境学会 事業報告

(平成 22 年 8 月 1 日～平成 23 年 7 月 31 日)

1. 会員の状況

種 別	平成 22 年 7 月 31 日	平成 23 年 7 月 31 日	差引増減 (△)
正 会 員	1,276 名	1,236 名	△ 40 名
学生会員	96 名	66 名	△ 30 名
賛助会員	60 団体 (81 口)	58 団体 (77 口)	△ 2 団体

2. 年会報告

平成 22 年 9 月 8 日 (水)～10 日 (金) に近畿支部の担当で、豊中市の大阪大学豊中キャンパスにおいて、第 51 回大気環境学会年会を開催した、参加者数は、正会員 386 名、学生会員 97 名、非会員 22 名であり、機器展出展／カタログ出展企業数は 19 社であった。

創立 50 周年国際記念シンポジウム、総会、受賞記念講演 2、特別講演、シンポジウム、特別集会 7、分科会 11、機器展、行政の展示等が開催された。一般研究発表は、口頭発表 262 件、ポスター発表 88 件、あわせて 350 件であった。

大気環境学会創立 50 周年記念国際シンポジウムのサテライトシンポジウムを「きれいな空気を未来の子どもたちへ」のテーマで一般公開として開催した。また、機器展出典企業による技術セミナーを開催した。

3. 総会開催

平成 22 年 9 月 9 日 (木) 大阪大学豊中キャンパス 協生館大講堂にて平成 22 年度総会を開催した。

審議及び報告事項

- 1) 平成 21 年度事業報告及び収支決算報告
- 2) 平成 22 年度事業計画及び収支予算報告
- 3) 大気環境学会役員を選任
- 4) 公益法人への移行
- 5) 名誉会員の推戴
- 6) 大気環境学会創立 50 周年記念表彰
- 7) 第 52 回大気環境学会年会開催地
- 8) その他

4. 理事会等開催

(1) 常任理事会

定例の会議を次のように開催した。

平成 22 年 8 月 19 日 平成 22 年 11 月 17 日 平成 23 年 4 月 14 日 平成 23 年 7 月 4 日

大気環境学会会議室、ルノアール会議室

(2) 理事会

定例の会議を次のように開催した。

平成 22 年 9 月 7 日 (阪急ターミナルスクエア 17 会議室)

(3) 支部長会

平成 22 年 9 月 7 日 (阪急ターミナルスクエア 17 会議室) 各支部の報告が行われた。

5. 出版等

- (1) 大気環境学会誌 第 45 巻 5 号～第 46 巻 4 号 計 6 号を刊行した。なお、第 44 巻 6 号は学生・若手論文特集号とし、また、第 46 巻 2 号は PM2.5 特集号とし、総説、論文、入門講座、環境省資料、製品紹介等を掲載した。
- (2) 第 51 回大気環境学会年会講演要旨集 B5 版にて刊行 (年会事務局)
- (3) 日韓大気環境学会合同英文誌「Asian Journal of Atmospheric Environment」Vol.4 No.2、No.3、及び Vol.5、No.1 が刊行された。

6. 委員会開催

(1) 国際交流委員会

- 1) 平成 22 年 9 月 5 日 大気環境学会 50 周年記念国際シンポジウム を開催した。

主題：きれいな空気を未来の子どもたちへ (Main Theme: Fresh Air for Children in Future)

会場：東京大学武田ホール Takeda Hall, Tokyo University

参加者：一般市民及び会員 約 30 名

- 2) 平成 22 年 9 月 8 日 (水), 大気環境学会 51 年会 (大阪大学) にて, 50 周年記念国際シンポジウム サテライトシンポジウムを上記内容一部変更し開催した。
- 3) 平成 22 年 9 月 8 日 (水), 大気環境学会 51 年会 (大阪大学) にて, 第 9 回日韓国際交流シンポジウムを開催し, 韓国大気環境学会員 8 名が発表した。
- 4) 平成 22 年 9 月 8 日 (水), 大気環境学会 51 年会 (大阪大学) にて, 国際交流委員会を開催した。
- 5) 日韓大気環境学会合同英文誌 Asian Journal of Atmospheric Environment Vol. 4, No. 2, No.3, Vol.5, No.1 を韓国で印刷し刊行された。

(2) 編集委員会

- 1) 編集委員会を平成 22 年 9 月 10 日に、また、編集実務委員会を平成 22 年 11 月 10 日、平成 23 年 1 月 12 日、平成 23 年 3 月 30 日、平成 23 年 5 月 18 日、平成 23 年 7 月 25 日に開催して、学会誌の編集企画を行い、合計 6 号 (第 45 巻第 5 号～第 46 巻第 4 号) を刊行した。
- 2) 第 46 巻第 2 号を「PM_{2.5}特集号」(あおぞら、総説 4 編、一般投稿論文 5 編、入門講座 1 編、資料で構成) として刊行した。また、第 46 巻第 3 号に 5 編、第 4 号に 2 編の PM_{2.5} 特集号投稿論文を掲載した。
- 3) 第 45 巻第 6 号を「学生・若手研究者の論文特集号」とし、第 46 巻第 1 号掲載分と併せて、原著 4 編、ノート 1 編、技術調査報告 3 編を掲載した。
- 4) 入門講座(「大気モデル」(計 6 回のうち 5 回掲載: 第 45 巻第 5, 6 号、第 46 巻第 1, 3, 4 号)、「PM_{2.5}」(計 4 回の予定: 第 45 巻第 5 号、第 46 巻第 2 号)、書評などの読み物を掲載した。
- 5) 投稿規程、投稿の手引き、並びに、和文・英文テンプレートを改訂した。また、著者が原稿を投稿する時に原稿書式をチェックするための「入稿チェックリスト」を作成した(第 46 巻第 5 号に掲載予定)。
- 6) 科学技術振興機構(JST)の科学技術情報発信・流通総合システム(J-Stage)への掲載を開始し、第 45 巻第 1～6 号、第 46 巻第 1～2 号を掲載した。また、JST 電子アーカイブ事業を利用して学会誌のアーカイブ(対象は、「大気汚染研究」の第 1 巻から「大気汚染学会誌」をへて「大気環境学会誌」第 43 巻)を進めた。

(3) 大気環境学会賞選考委員会

委員会：平成 23 年 7 月 4 日、平成 23 年 8 月 12 日

大気環境学会賞の各賞の選考を行ない、学術賞 2 件、進歩賞 1 件を推薦した。

大気環境学誌論文賞の選考を行ない、学術部門 3 件、進歩部門 2 件、学生・若手部門 2 件を推薦した。

9 月 13 日の理事会で承認し、9 月 15 日の総会で表彰する。

(4) 大気環境学会論文賞選考分科会

委員会：平成 23 年 5 月 13 日、7 月 8 日

大気環境学会誌第 45 巻、及び AJAE 誌に掲載の論文について大気環境学会論文賞の選考を行い、論文賞 7 件を学会賞選考委員会に推薦した。

(5) 事業委員会

1) シンポジウムの開催

「微小粒子状物質 (PM_{2.5}) の現状と今後の課題」(平成 22 年 10 月 22 日、東京都公文書館講堂、約 400 名参加。

「越境大気汚染の現状」(平成 23 年 1 月 28 日、福岡市アクロス福岡、九州支部) での開催に協力した。約 70 名参加。

「今後の有害大気汚染物質対策について」(平成 23 年 7 月 11 日、文京シビックホール) 約 75 名参加。

2) 大気環境学会アーカイブズ事業

過去 50 年に渡る年会講演要旨集のデータベース化を進めた。書誌事項の入力作業をほぼ終了し、検索機能を付与する作業が終了し、会員への配布方法について検討中である。平成 22 年 9 月東大武田ホールで開催された国際シンポジウム及び第 51 回年会会場の大阪大学において、アーカイブズ事業全体の展示を行った。

3) フィルムライブラリー事業

会員、自治体等が所蔵している写真や映像を提供いただき、ポスター化し、年会等で展示する準備を行った。

4) 委員会開催

平成 22 年 11 月 15 日、平成 23 年 2 月 18 日、平成 23 年 4 月 22 日、平成 23 年 6 月 24 日の 4 回開催した。

5) 市民講演会の開催

平成 23 年 7 月 3 日に日本薬学会と共催で放射能に関する市民講演会を開催した。

(6) 倫理委員会

- 1) 第 11 回倫理委員会、平成 22 年 9 月 8 日大阪大学年会にて、学会倫理綱領、「同解説」については、現在のままで問題がないことが確認された。
- 2) 第 12 回倫理委員会、平成 23 年 4 月 25 日学会事務局にて、若松委員長以下の 5 名の新委員が選任された、年会のシンポジウム（特別講演）について検討し、東日本大震災後の放射性物質の拡散と影響をテーマとすることとした。

(7) 産官学民連絡協議会

大気環境学会年会の特別集会として、下記のプログラムによる講演会を行った。
日時：平成 22 年 9 月 8 日（水） 場所：大阪大学豊中キャンパス 年会H会場
テーマ：黄砂及び越境大気汚染に関する最近の話題

(8) 広報委員会

平成 22 年度においては、見やすく使いやすい学会ホームページにすることを優先課題として作業を進めてきた、学会ホームページの新しいトップページ案ができあがりつつあり、できるだけ早く切り替える予定。会員から様々な掲載依頼がある、広報委員長を中心に速やかに判断し、掲載の可否を決定するシステムを構築する必要がある。
平成 23 年 4 月 14～15 日の 2 日間開催の環境工学連合講演会へ伊豆田委員長が講演を予定したが、東日本大震災のため平成 24 年に開催される予定となった。

(9) 公益法人検討委員会

1) 申請の延期

昨年度総会において定款変更案及び付帯決議が議決されたが、内閣府等に事前相談をしたところ、定款案に不備な点があり、現時点での申請は無理であり約 1 年間程度延期をせざるを得ない状況にある。申請書類作成業務等について、公認会計士事務所に委託することとした。

2) 公益法人移行スケジュールについて

第 52 回年会総会において、再度、定款案修正版及び付帯決議等について特別決議を行う。移行認定のための申請書類の作成業務を行い、平成 24 年 8 月の公益社団法人登記を目途とする（会計年度を合わせるため）。

3) 公認会計士事務所への委託内容

①定款変更の案の作成、修正 ②公益認定に必要な各種規程等の作成、修正 ③移行認定申請書類の作成、修正 ④収支予算・決算等の組み替え作業。平成 23 年 8 月 1 日付で契約する。

4) 委員会の開催等

委員会を平成 22 年 8 月 10 日、平成 23 年 4 月 8 日に開催した。公益法人協会との相談、公認会計士事務所との打合せを行った。

(10) 50 周年記念事業企画委員会

昨年に引き続き、50 周年記念事業として、次のような記念事業の企画・開催を行った。

50 周年記念国際シンポジウムの開催、

平成 22 年 9 月 5 日 東京大学武田ホール

テーマ：きれいな空気を未来の子供たちへ、第 1 部 化学物質管理と子供たちの健康
第 2 部 温暖化ガスの削減と大気環境

特別シンポジウムの開催

平成 22 年 9 月 8 日 大阪大学豊中キャンパス（第 51 回年会に併せて開催）

テーマ：Fresh Air for Children in Future

創立 50 周年記念表彰

創立 50 周年を記念して大気環境学会に対する貢献に対し、本部推薦の特別功労賞 1 名、各支部推薦の功労賞 24 名、地域奨励賞 11 名、記念功労賞 4 名、記念功績賞 6 名の表彰をした。

7. 支部報告

(1) 北海道・東北支部

平成 22 年 10 月 22 日 山形市 山形テルサにて、支部総会、支部学会、幹事会を併催。

支部総会 平成 21 年度支部活動報告、決算報告、平成 22 年度支部活動方針、予算案
次回支部総会は秋田県にての開催が決定。

支部学会 総会と同会場にて開催した。やまがた酸性雨ネットワーク及び山形大学と共催した。一般講演 9 題、ポスター 18 件、であった。+

幹事会 総会に併せて支部幹事会を開催した、平成 21 年度支部活動報告、決算報告、平成 22 年度支部活動方針、予算案等。

(2) 関東支部

支部総会の開催 平成 23 年 6 月 3 日 (金) 会場 ムーブ町屋 (3 階) ムーブホール
①支部長挨拶 ②支部、部会活動報告 ③会計報告 ④次年度活動計画

支部役員会 第 1 回 平成 22 年 10 月 18 日 第 2 回 平成 23 年 1 月 11 日
(部会長と合同) 第 3 回 平成 23 年 2 月 23 日 第 4 回 平成 23 年 5 月 12 日

22 年度 関東支部講演会の開催

全国環境研究所協議会関東甲信静支部および大気環境学会植物分科会との共催で実施した。

平成 23 年 6 月 3 日 (金) 会場 ムーブ町屋 (3 階) ムーブホール

テーマ：－改善されない光化学大気汚染問題に我々はどうに対応するか－ 4 演題

関東支部ホームページの活性化と効率化

学会本部のレンタルサーバーに関東支部ホームページを統合し費用を圧縮した。ホームページに関東支部講演会の講演要旨、プレゼンファイルを掲載した。

(3) 中部支部

評議員会 平成 22 年 11 月 27 日 じゅうろくプラザ(岐阜市文化産業交流センター)
平成 22 年度中部支部総会へ提出する議題について協議

支部総会 平成 22 年 11 月 27 日 じゅうろくプラザ(岐阜市文化産業交流センター)
平成 21 年度経過報告、決算報告、会計監査報告
平成 22 年度決算見込、平成 23 年度事業計画・予算案

学術講演会 平成 22 年 11 月 27 日 じゅうろくプラザ(岐阜市文化産業交流センター)
基調講演 「黄砂の沈着について」 長田 和雄(名古屋大学大学院環境学研究科)
一般発表 6 題、

(4) 近畿支部

支部総会・シンポジウム 平成 23 年 1 月 14 日(金) 大阪大学中之島センター

総会議事 : 平成 21 年度事業報告、収支決算報告、部会報告、新支部長、副支部長、監事、
幹事の承認、平成 22 年度事業計画ならびに予算案
平成 22 年度事業計画、収支予算

シンポジウム 「二酸化炭素回収・貯留 (CCS) 技術の現状」

理事会・運営委員会 平成 23 年 1 月 14 日(金) 大阪大学中之島センター

理事選挙結果の報告、支部長および副支部長選出、会員増対策・支部活性化対策、
部会活動の今後について他

第 51 回年会

平成 22 年 9 月 8 日～10 日 大阪大学 豊中キャンパス にて開催

部会講演会・セミナー

エアロゾル部会 平成 23 年 3 月 25 日 講演会「広域大気汚染と PM」

反応と測定部会 平成 22 年 12 月 10 日 一般発表 13 題、招待発表 1 題、特別講演 1 題

気象拡散部会 平成 23 年 6 月 28 日 講演会「数値モデルを用いた近畿圏における霧による酸性沈着の評価」他 2 題

(5) 中国・四国支部

第 8 回イノベーションシンポジウム 平成 22 年 10 月 23 日 広島県民文化センター
日本化学会とシンポジウムを共催

講演会 平成 23 年 1 月 22 日 広島県情報プラザ (県立図書館)
一般演題 18 題、大気環境学会受賞者 2 題、特別講演 1 題

幹事会、総会 平成 23 年 5 月 13 日 山口県健康づくりセンター

大気、水、資源循環、中国四国支部合同公演会 平成 23 年 5 月 13 日 山口県健康づくりセンター

(6) 九州支部

役員会 平成 23 年 1 月 28 日 アクロス福岡

平成 21 年度事業実施報告と収支決算、平成 22 年度事業計画 (案) 及び予算 (案)

支部総会 平成 23 年 1 月 28 日 アクロス福岡

平成 21 年度事業実施報告と収支決算、平成 22 年度事業計画（案）及び予算（案）
支部研究発表会 平成 23 年 1 月 28 日 アクロス福岡
一般講演 研究発表 8 演題
大気環境学会シンポジウム 平成 23 年 1 月 28 日 アクロス福岡
テーマ「越境大気汚染の現状」講演 4 名

8. 分科会報告

(1) 酸性雨分科会

年会分科会 平成 22 年 9 月 8 日（第 51 回年会 大阪大学）
テーマ：「酸性物質の沈着過程、起源・寄与率推定」
東京講演会 平成 23 年 2 月 28 日 法政大学小金井キャンパス
テーマ：「大気と海洋の物質循環と若き研究者の育成」
富山講演会 平成 23 年 7 月 21 日 富山県環境科学センター及び立山黄砂・酸性雨観測局
テーマ：「黄砂と立山での観測」
その他活動 酸性雨研究ニュースの発行、酸性雨ホームページの更新

(2) 環境大気モニタリング分科会

年会分科会 平成 22 年 9 月 8 日 第 51 回大気環境学会年会 大阪大学
テーマ：「環境大気モニタリングに関する最近の動向
—オゾン標準・大気中 VOC・汚染物質の移流—」
研究会 平成 23 年 3 月 11 日 東京八重洲 ルノアール会議室
テーマ名： 微小粒子状物質（PM2.5）モニタリングの実際と今後の課題
3 演題の講演を行った。
幹事会 平成 23 年 3 月 11 日 東京八重洲ルノアール会議室

(3) 自動車環境分科会

年会分科会 平成 22 年 9 月 8 日 第 51 回大気環境学会年会 大阪大学
テーマ 「最新規制対応自動車から排出される有害成分の計測方法と排出実態」
4 演題の分科会講演を行った。

(4) 大気環境文化財分科会

年会分科会 平成 22 年 9 月 8 日 第 51 回大気環境学会年会 大阪大学
テーマ 「環境と文化財」 3 演題の分科会講演を行った。

(5) 都市大気環境モデリング分科会

国内のCTMユーザーに呼びかけ、情報交換・研究交流を促進するとともに、モデルの相互比較の実施により、現状の都市環境モデルの問題・課題を浮き彫りにし、再現性の向上につなげていくことを目的とした。今年度は、同一エピソードにおいて、気象条件・排出量・境界条件を統一した条件にて、モデル中の各種物理・化学モジュールの最適パラメータを検討した。

9. 講演会の開催

東日本大震災と直後の津波により、福島原子力発電所から放射性物質が漏出する事故が発生した。その結果、発電所からの放射性物質の大気への拡散、海洋への放出、農作物や水道原水の汚染などが確認され、健康影響に対する一般市民の不安を招いている。日本薬学会と大気環境学会が共催して、この問題に関わる市民講演会を日本薬学会と大気環境学会の共催で開催した。

(1) 開催日時 平成 23 年 7 月 3 日（日）13 時～17 時

(2) 開催場所 日本薬学会長井記念ホール

(3) 講演

- 1) 「原子力発電の基礎と事故による環境汚染・被曝」
山本 正儀（金沢大学環日本海域環境研究センター）
- 2) 「原子力事故時の放射性物質の大気中での挙動」
堅田 元喜（日本原子力研究開発機構）
- 3) 「飲食物中の放射性物質」
蜂須賀 暁子（国立医薬品食品衛生研究所）
- 4) 「水道水中の放射性物質」
浅見 真理（国立保健医療科学院生活環境研究部）